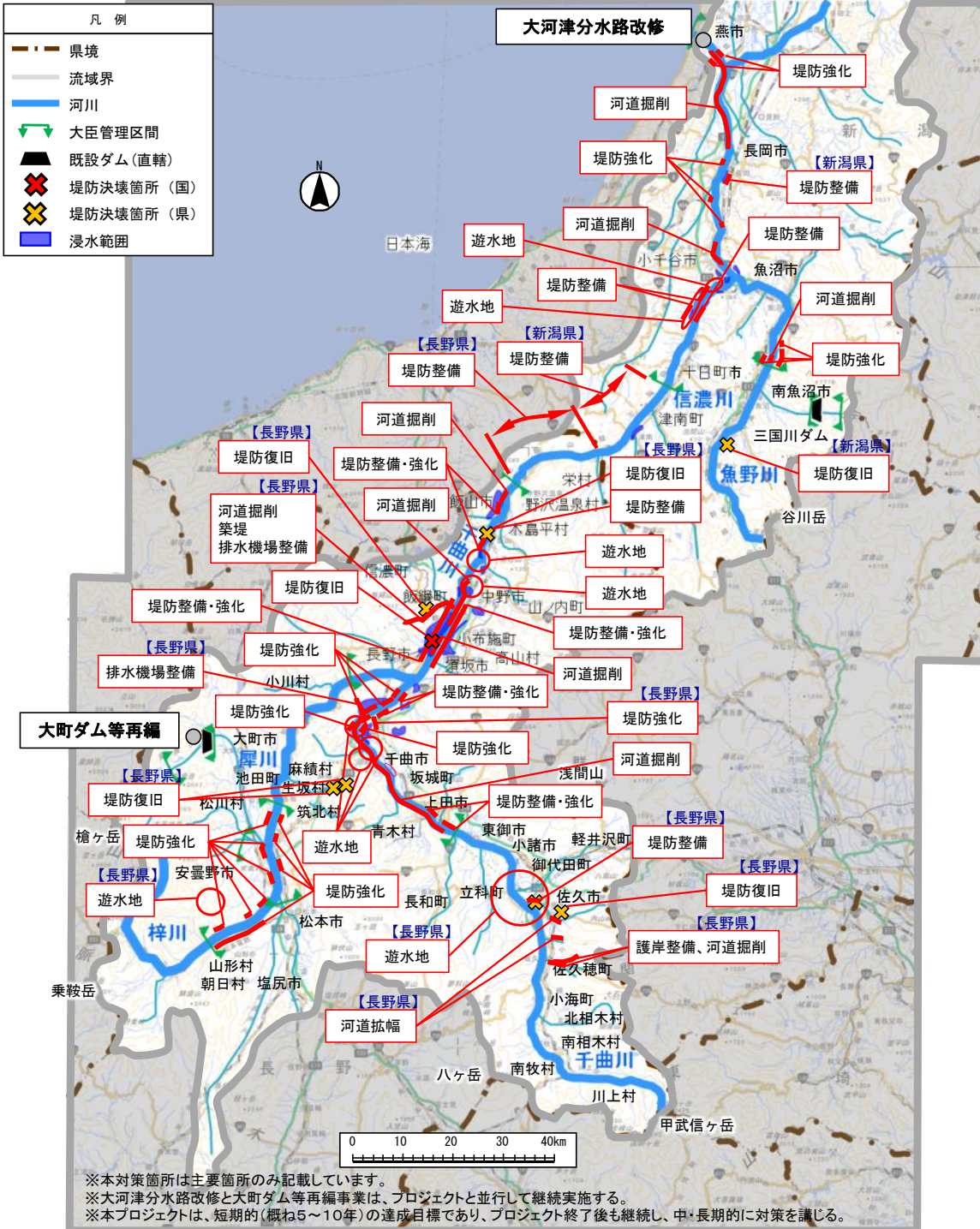


「日本一の大河」上流から下流まで流域一体となった防災・減災対策の推進



○令和元年東日本台風により、甚大な被害が発生した信濃川水系において国、県、市町村が連携し、「**信濃川水系緊急治水対策プロジェクト**」を進めています。

○国、県、市町村が連携し、以下の取り組みを実施していくことで、信濃川本川及び千曲川本川の堤防で被災した区間で越水防止を目指します。

- ①被害の軽減に向けた治水対策の推進【河川における対策】
- ②地域が連携した浸水被害軽減対策の推進【流域における対策】
- ③減災に向けた更なる取組の推進【ソフト施策】

○令和5年度は、引き続き上下流バランスを踏まえた、全川での河道掘削等の改良復旧、ため池・田んぼダム等既存施設の有効利用(流域対策)、マイタイムラインの普及(ソフト施策)を実施

■河川における対策

全体事業費 約1,866億円【国：約1,227億円、県：約639億円】
 災害復旧 約586億円【国：約214億円、県：約372億円】
 改良復旧 約1,280億円【国：約1,013億円、県：約267億円】

事業期間 令和元年度～令和9年度
 目 標 【令和6年度まで】

- 令和元年東日本台風(台風第19号)洪水における
 - ・千曲川本川の大規模な浸水被害が発生した区間等において越水等による家屋部の浸水を防止
 - ・信濃川本川の越水等による家屋部の浸水を防止

【令和9年度まで】

- 令和元年東日本台風(台風第19号)洪水における
 - ・千曲川本川からの越水等による家屋部の浸水を防止

対策内容 河道掘削、遊水地、堤防整備・強化

※県の改良復旧事業等の新規事業採択(R3.4)により事業費が追加されました。
 ※四捨五入の関係で合計値が合わない場合があります。

■流域における対策

- ・ため池等既存施設の補強や有効活用
- ・田んぼダムを活用した雨水貯留機能の確保
- ・学校グラウンドなどを活用した雨水貯留施設
- ・排水機場等の整備、耐水化の取組
- ・防災拠点等

■ソフト施策

- ・「まちづくり」や住まい方の誘導による水害に強い地域づくりの検討
- ・高床式住まいの推進
- ・マイ・タイムラインの普及
- ・公共交通機関との洪水情報の共有
- ・住民への情報伝達手段の強化



長野市穂保地先の堤防決壊、浸水被害状況



新潟県小千谷市内における浸水被害状況

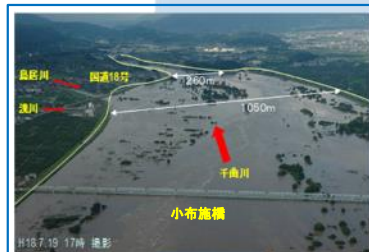
※計数については、今後の調査、検討等の結果、変更となる場合がある。

「日本一の大河」上流から下流まで流域一体となった防災・減災対策の推進

上下流や本川支川の信濃川流域全体を見据え、

- 立ヶ花狭窄部上流の緊急的な堤防強化（粘り強い河川堤防構造）
- 下流から計画的に行う堤防整備や河道掘削（大河津分水路改修、立ヶ花狭窄部掘削）
- 上流で洪水を貯留するダム（大町ダム等再編）や遊水地の整備

といった河川におけるハード対策をフル動員し、各管理者が連携・調整しながら、段階的かつ緊急的に対策を講じる。



立ヶ花狭窄部掘削



堤防強化(粘り強い河川堤防)



大町ダム等再編事業

黒沢川遊水地

千曲川上流遊水地



大河津分水路改修事業



信濃川中流遊水地群



千曲川下流遊水地群



千曲川中流遊水地群

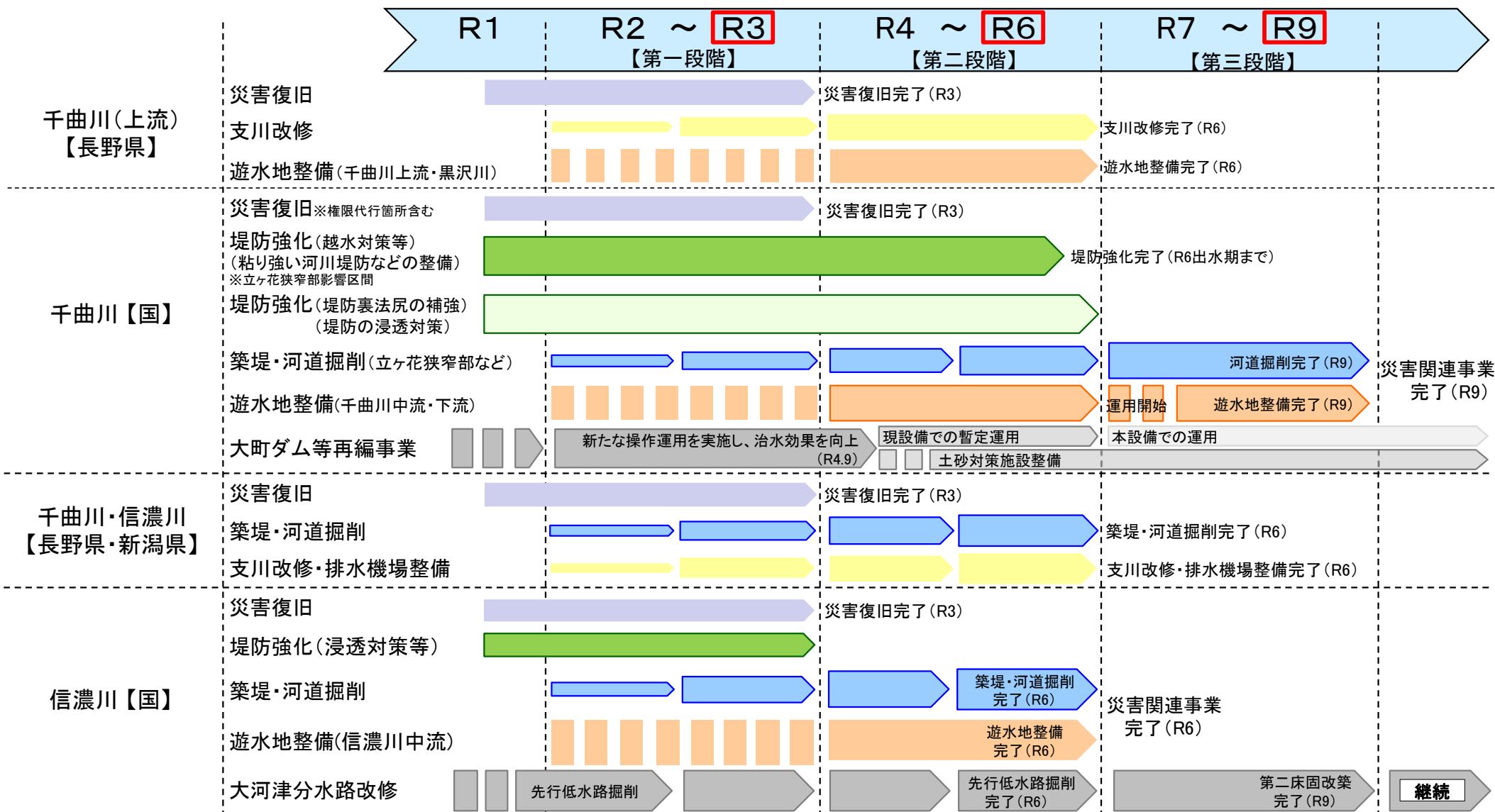


凡例	
	流域界
	県境
	河川
	既設ダム(直轄)
	基準地点(高水)
	基準地点(低水)
	主要地点
	想定氾濫区域(国管理区間)
	大臣管理区間



「日本一の大河」上流から下流まで流域一体となった防災・減災対策の推進

- 【第一段階(復旧)】 災害復旧は令和3年8月出水・令和4年7月出水による被害拡大箇所等を除いて令和3年度までに完了(権限代行含む)並びに大河津分水路などの下流域の整備に応じた河道掘削(立ヶ花狭窄部など)を順次実施
- 【第二段階(復興)】 改良復旧である堤防強化(粘り強い河川堤防構造など)や遊水地、大町ダム等再編事業(容量再編)を完了
- 【第三段階(復興)】 遊水地、河道掘削(立ヶ花狭窄部など)を令和9年度完了



「日本一の大河」上流から下流まで流域一体となった防災・減災対策の推進

◇原型復旧は、全797箇所のうち、797箇所完成(進捗率:100%)。

◇改良復旧は、狭窄部の掘削及びその上流の堤防(左右岸約18km)について、堤防強化を推進中

◇遊水地は関係者(地元)説明会を開催し、丁寧な説明を行いつつ早期の着手を目指している。

原型復旧の進捗

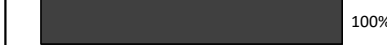
千曲川河川事務所

24箇所/24箇所(国管理区間)
 5箇所/5箇所(権限代行区間)



信濃川河川事務所

12箇所/12箇所



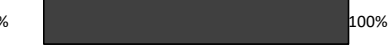
長野県

675箇所/675箇所 ※権限代行除く
 ※改良復旧同時施工箇所10箇所を除く
 ※R3.8、R4.7出水による被害拡大箇所等を除く



新潟県

81箇所/81箇所



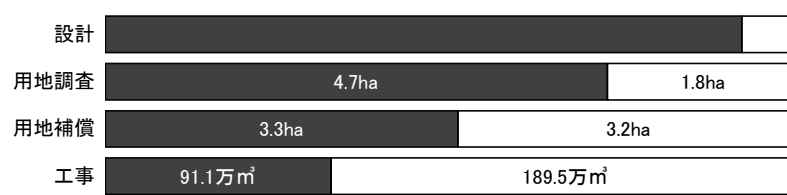
令和2年6月撮影
 長野県長野市 穂保地区 復旧状況



令和3年7月撮影
 長野県東御市 本海野地区 復旧状況

改良復旧等の進捗

①河道掘削 (10箇所 281.0万m³)

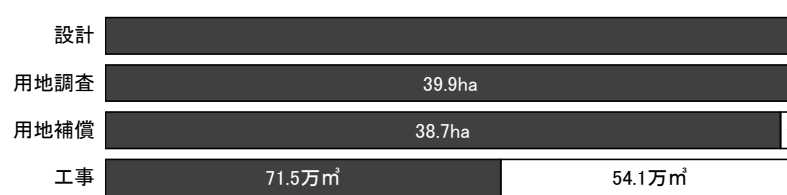


進捗率



着手後
 小千谷市 東栄地区(信濃川 右岸)
 令和5年12月撮影

②築堤・堤防整備(量的整備) (25箇所 129.3万m³)

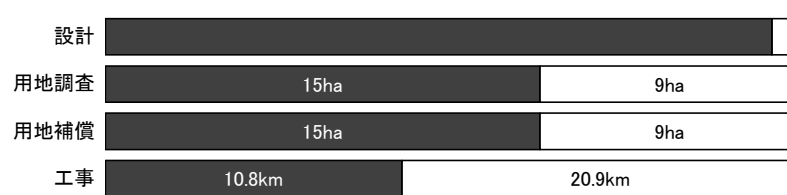


進捗率



新潟県津南町 巻下・小島・押付地区(信濃川 左岸)
 令和5年12月撮影

③堤防強化(質的整備) (26箇所 31.7km)



進捗率



長野市 赤沼地区(千曲川)

④遊水地 (9箇所)

地元説明会実施回数

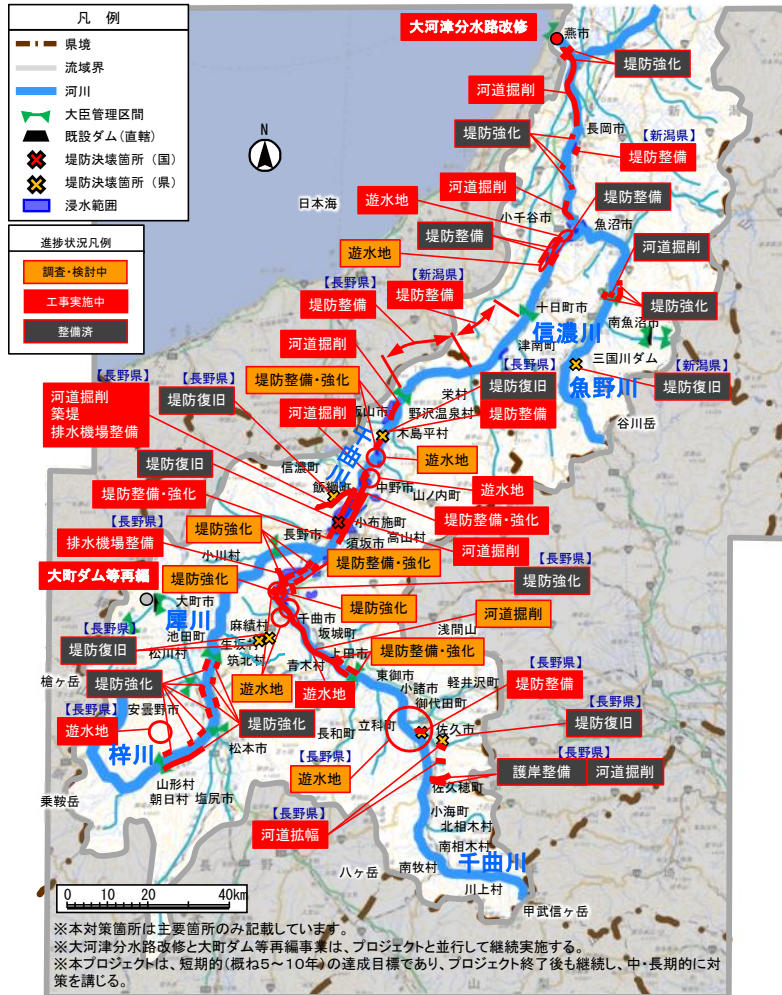
信濃川河川事務所 22回 長野県 14回
 千曲川河川事務所 81回

8遊水地で住民説明会実施中
 うち、4遊水地で工事实施中



中野市上今井地区住民説明会の状況

※令和5年9月末時点における、必要数量に対する数量・進捗率



※本対策箇所は主要箇所のみ記載しています。
 ※大町分水路改修と大町ダム等再編事業は、プロジェクトと並行して継続実施する。
 ※本プロジェクトは、短期的(概ね5~10年)の達成目標であり、プロジェクト終了後も継続し、中・長期的に対策を講じる。

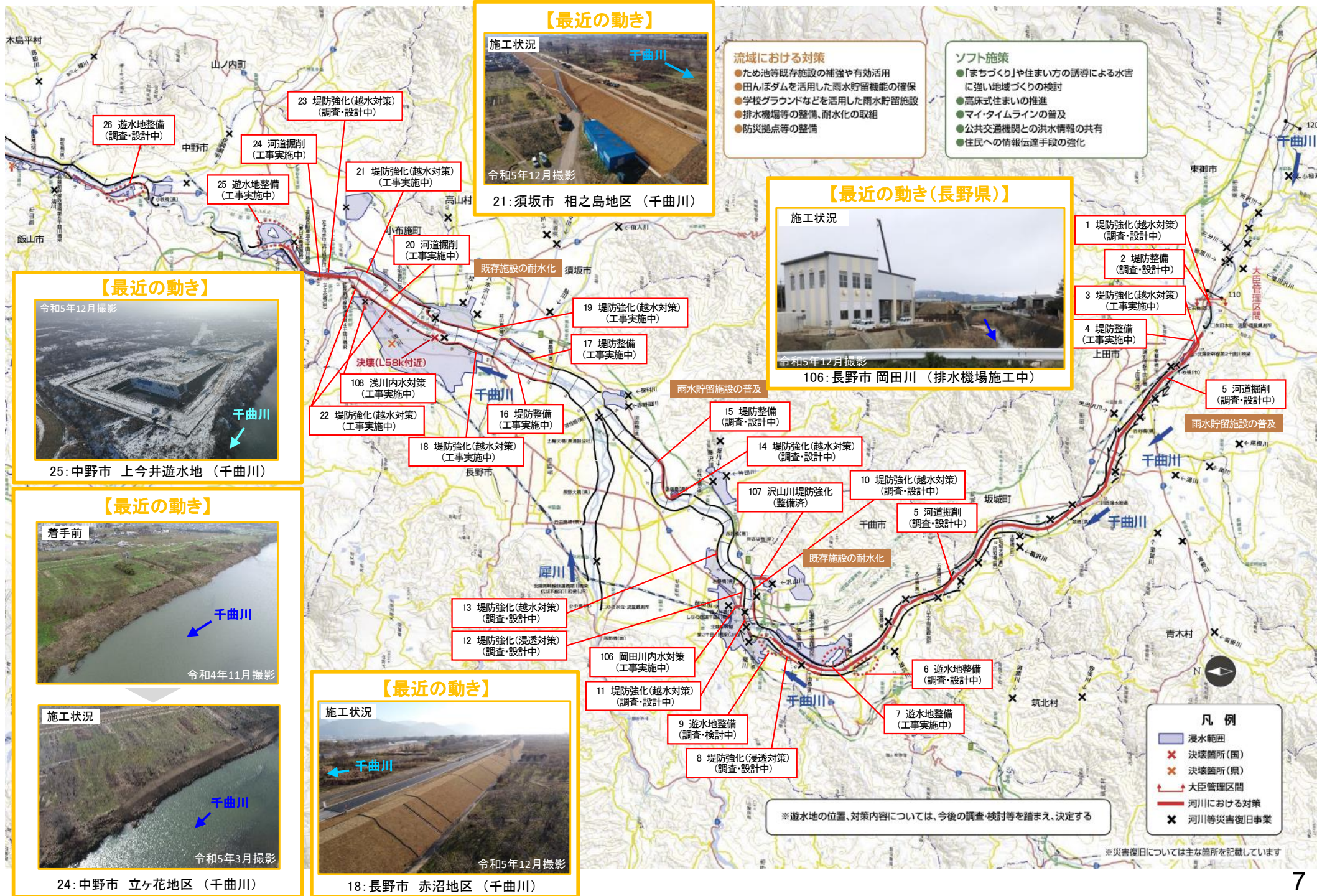
「日本一の大河」上流から下流まで流域一体となった防災・減災対策の推進



「日本一の大河」上流から下流まで流域一体となった防災・減災対策の推進



「日本一の大河」上流から下流まで流域一体となった防災・減災対策の推進



【最近の動き】



21: 須坂市 相之島地区 (千曲川)

- 流域における対策**
- ため池等既存施設の補強や有効活用
 - 田んぼダムを活用した雨水貯留機能の確保
 - 学校グラウンドなどを活用した雨水貯留施設
 - 排水機場等の整備、耐水化の取組
 - 防災拠点等の整備

- ソフト施策**
- 「まちづくり」や住まい方の誘導による水害に強い地域づくりの検討
 - 高床式住まいの推進
 - マイ・タイムラインの普及
 - 公共交通機関との洪水情報の共有
 - 住民への情報伝達手段の強化

【最近の動き(長野県)】



106: 長野市 岡田川 (排水機場施工中)

- 1 堤防強化(越水対策) (調査・設計中)
- 2 堤防整備 (調査・設計中)
- 3 堤防強化(越水対策) (工事実施中)
- 4 堤防整備 (工事実施中)
- 5 河道掘削 (調査・設計中)

【最近の動き】



25: 中野市 上今井遊水地 (千曲川)

【最近の動き】



24: 中野市 立ヶ花地区 (千曲川)

【最近の動き】



18: 長野市 赤沼地区 (千曲川)

- 凡例**
- 浸水範囲
 - × 決壊箇所(国)
 - × 決壊箇所(県)
 - 大臣管理区間
 - 河川における対策
 - × 河川等災害復旧事業

※遊水地の位置、対策内容については、今後の調査・検討等を踏まえ、決定する

※災害復旧については主な箇所を記載しています

「日本一の大河」上流から下流まで流域一体となった防災・減災対策の推進



「日本一の大河」上流から下流まで流域一体となった防災・減災対策の推進

【最近の動き】



49: 小千谷市 東栄地区 (信濃川 右岸)

- 流域における対策**
- ため池等既存施設の補強や有効活用
 - 田んぼダムを活用した雨水貯留機能の確保
 - 学校グラウンドなどを活用した雨水貯留施設
 - 排水機場等の整備、耐水化の取組
 - 防災拠点等の整備

田んぼダム等の雨水貯留活用

【最近の動き(新潟県)】



42: 津南町 巻下・小島・押付地区 (信濃川 左岸)



【最近の動き】



47: 小千谷市 塩殿地区 (信濃川 左岸)

【最近の動き】



49: 小千谷市 木津地区 (信濃川 右岸)

- 43 堤防整備 (調査・設計中)
- 41 堤防整備 (工事実施中)
- 40 堤防整備 (整備済)
- 38 堤防整備 (工事実施中)
- 37 堤防整備 (工事実施中)
- 42 堤防整備 (工事実施中)
- 39 堤防整備 (工事実施中)

「日本一の大河」上流から下流まで流域一体となった防災・減災対策の推進

【最近の動き】



53:長岡市 榎下地区 (信濃川)

【最近の動き(新潟県)】



115:長岡市 今井地区 (浄土川)



【最近の動き】



56:大河津分水路改修事業 (大河津分水路)

凡例

- 浸水範囲
- 決壊箇所(国)
- 決壊箇所(県)
- 大臣管理区間
- 河川における対策
- 河川等災害復旧事業

流域における対策

- ため池等既存施設の補強や有効活用
- 田んぼダムを活用した雨水貯留機能の確保
- 学校グラウンドなどを活用した雨水貯留施設
- 排水機場等の整備、耐水化の取組
- 防災拠点等の整備

ソフト施策

- 「まちづくり」や住まい方の誘導による水害に強い地域づくりの検討
- 高床式住まいの推進
- マイ・タイムラインの普及
- 公共交通機関との洪水情報の共有
- 住民への情報伝達手段の強化

※災害復旧については主な箇所を記載しています